

依存症対策についてのアンケート結果

県では、今年度アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症への対策を総合的に推進することを目的として「(仮称)滋賀県依存症総合対策計画」を策定することとしています。

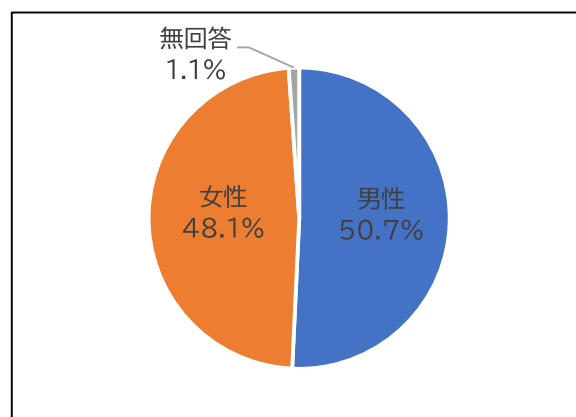
今後、県民の皆さんの各依存症に対する意識や取組の実態等を把握し、計画策定の基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

- ★ 調査時期:令和5年5月
 - ★ 対象者:県政モニター297人
 - ★ 回答数:268人(回答率90.2%)
 - ★ 担当課:健康医療福祉部 障害福祉課
- (※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。)

【属性】

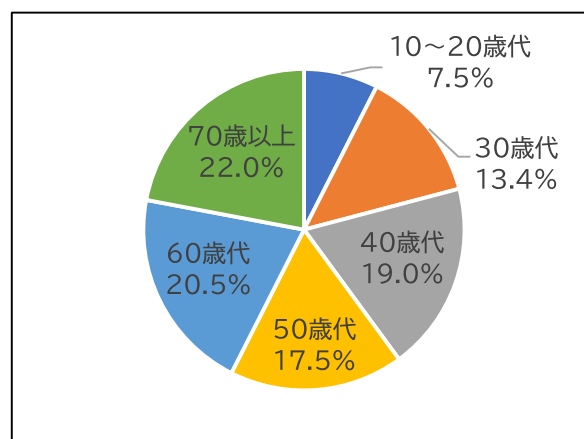
◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
1.男性	136	50.7
2.女性	129	48.1
3.無回答	3	1.1
合計	268	100.0



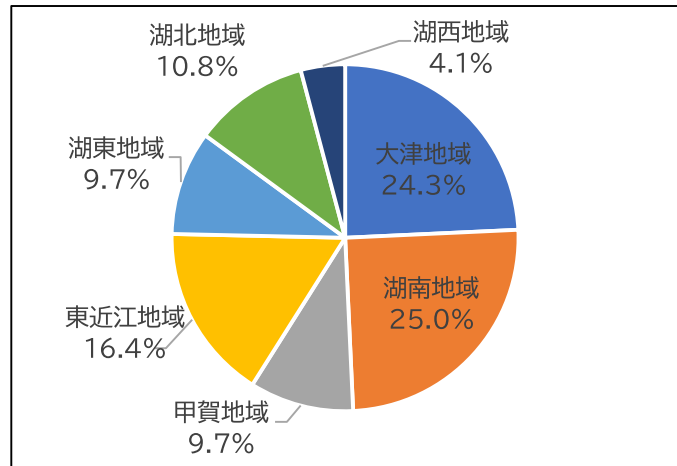
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
1.10~20歳代	20	7.5
2.30歳代	36	13.4
3.40歳代	51	19.0
4.50歳代	47	17.5
5.60歳代	55	20.5
6.70歳以上	59	22.0
合計	268	100.0



◆地域

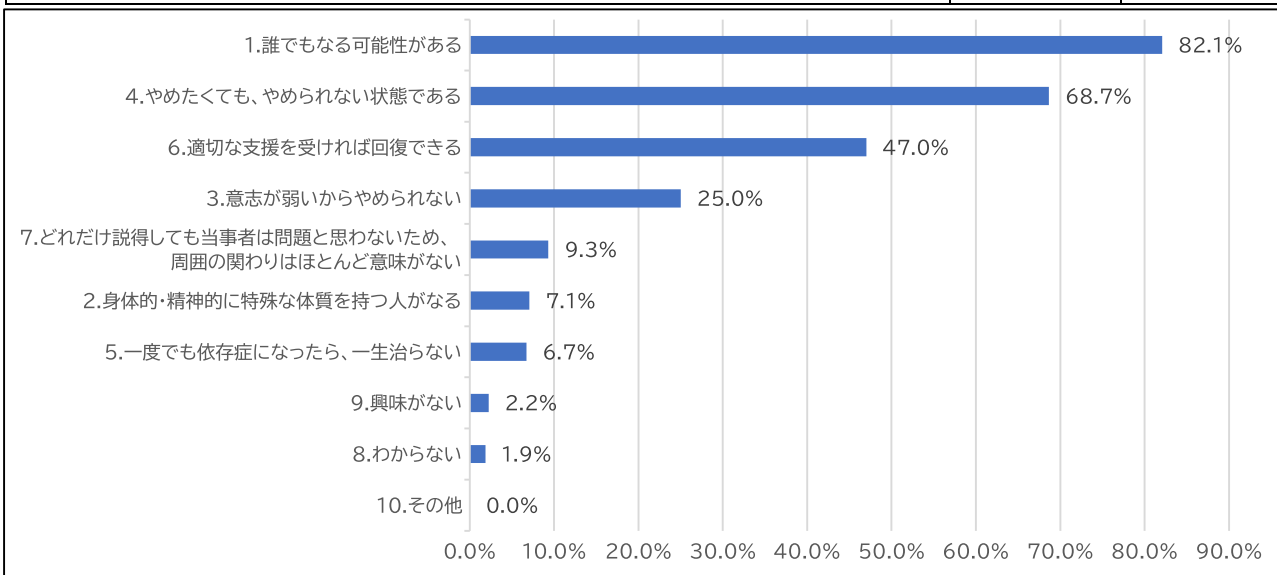
項目	人数(人)	割合(%)
1.大津地域	65	24.3
2.湖南地域	67	25.0
3.甲賀地域	26	9.7
4.東近江地域	44	16.4
5.湖東地域	26	9.7
6.湖北地域	29	10.8
7.湖西地域	11	4.1
合計	268	100.0



問1 ギャンブル等依存症のイメージで当てはまるものはどれですか。

(回答チェックはいくつでも。n=268)

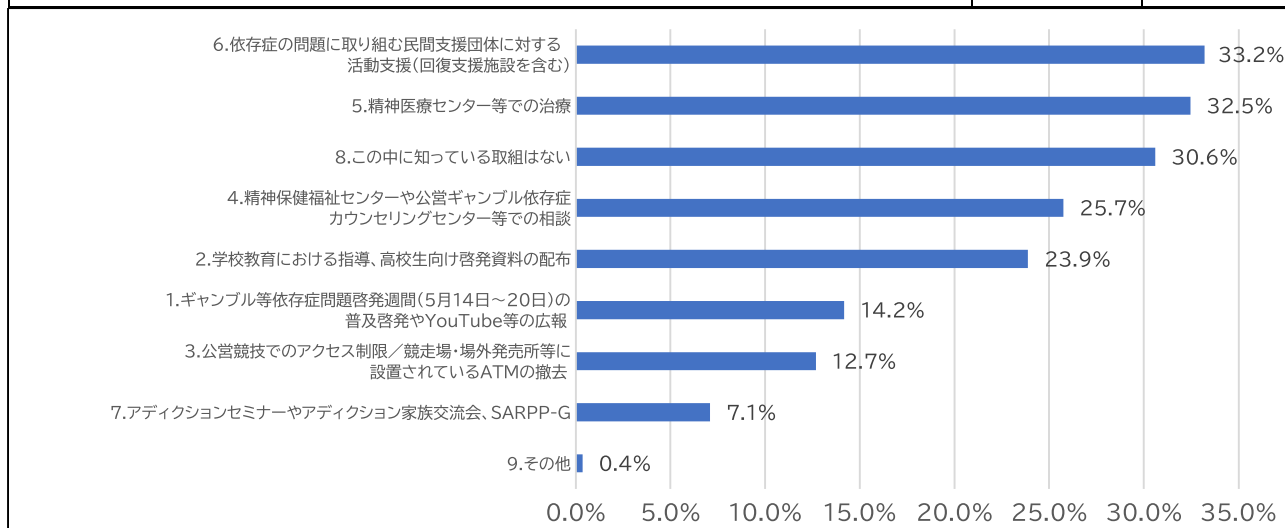
項目	人数(人)	割合(%)
1.誰でもなる可能性がある	220	82.1
2.身体的・精神的に特殊な体質を持つ人になる	19	7.1
3.意志が弱いからやめられない	67	25.0
4.やめたくても、やめられない状態である	184	68.7
5.一度でも依存症になったら、一生治らない	18	6.7
6.適切な支援を受ければ回復できる	126	47.0
7.どれだけ説得しても当事者は問題と思わないため、周囲の関わりはほとんど意味がない	25	9.3
8.わからない	5	1.9
9.興味がない	6	2.2
10.その他	0	0.0



問 2 ギャンブル等依存症対策関連で知っているものはどれですか。

(回答チェックはいくつでも。n=268)

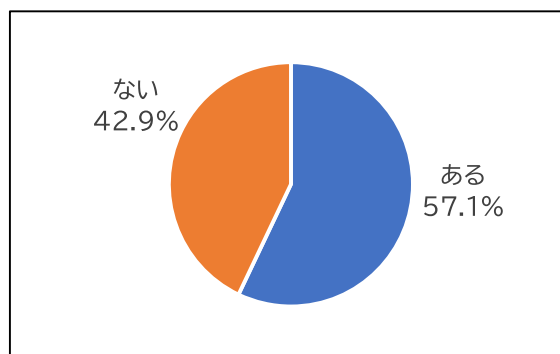
項目	人数(人)	割合(%)
1. ギャンブル等依存症問題啓発週間(5月14日~20日)の普及啓発やYouTube等の広報	38	14.2
2. 学校教育における指導、高校生向け啓発資料の配布	64	23.9
3. 公営競技でのアクセス制限/競走場・場外発売所等に設置されているATMの撤去	34	12.7
4. 精神保健福祉センターや公営ギャンブル依存症カウンセリングセンター等での相談	69	25.7
5. 精神医療センター等での治療	87	32.5
6. 依存症の問題に取り組む民間支援団体に対する活動支援(回復支援施設を含む)	89	33.2
7. アディクションセミナーやアディクション家族交流会、SARPP-G	19	7.1
8. この中に知っている取組はない	82	30.6
9. その他	1	0.4



問 3 あなたはこれまでにギャンブル等をしたことがありますか。

(回答チェックは1つだけ。n=268)

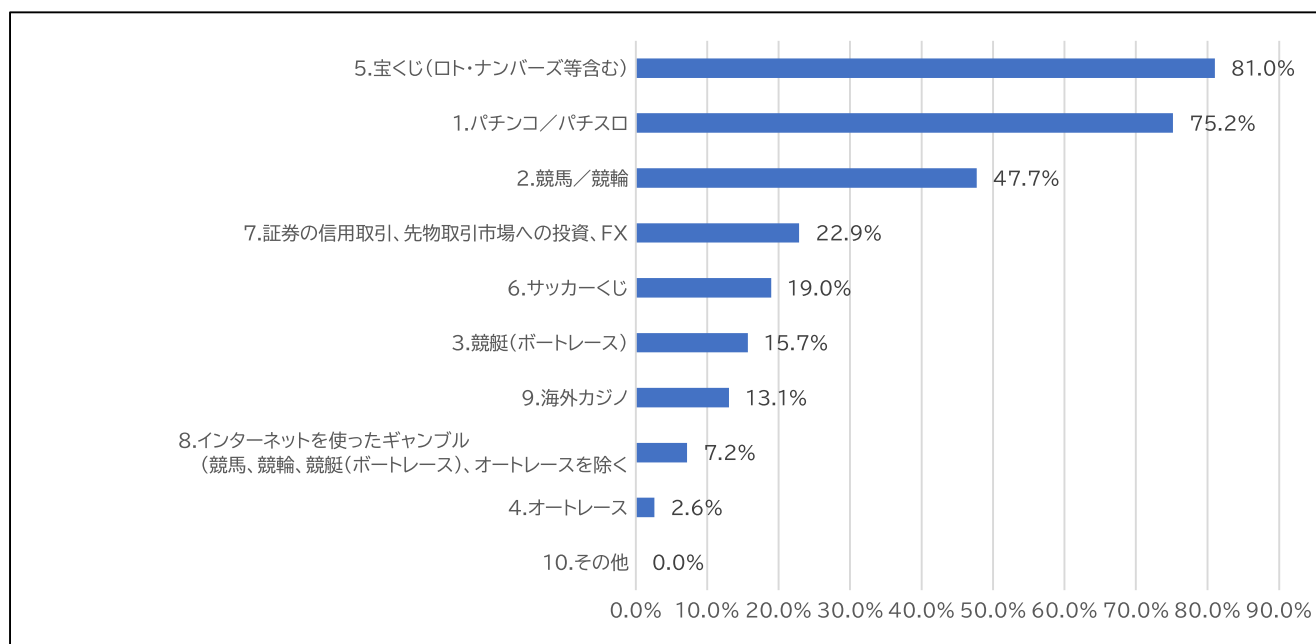
項目	人数(人)	割合(%)
ある	153	57.1
ない	115	42.9
合計	268	100



問4 これまでにしたことがあるギャンブル等の種類は何ですか。

(回答チェックはいくつでも。n=153)

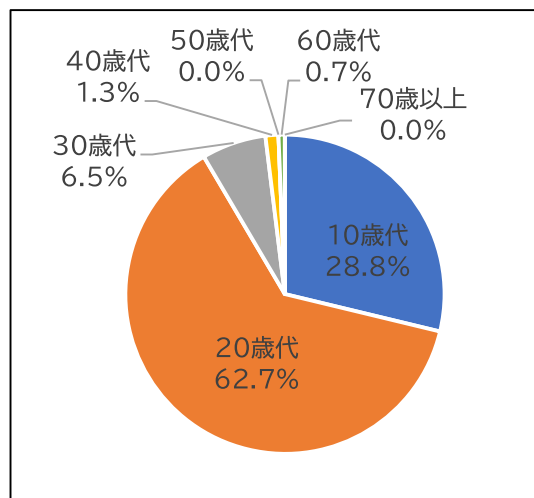
項目	人数(人)	割合(%)
1.パチンコ／パチスロ	115	75.2
2. 競馬／競輪	73	47.7
3. 競艇(ボートレース)	24	15.7
4. オートレース	4	2.6
5. 宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)	124	81.0
6. サッカーくじ	29	19.0
7. 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	35	22.9
8.インターネットを使ったギャンブル(競馬、競輪、競艇(ボートレース)、オートレースを除く)	11	7.2
9. 海外カジノ	20	13.1
10.その他	0	0.0



問5 初めてギャンブル等をしたのはいつですか。

(回答チェックは1つだけ。n=153)

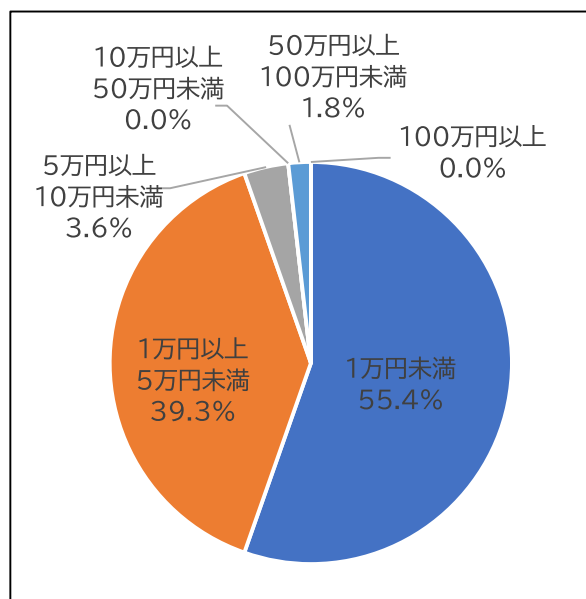
項目	人数(人)	割合(%)
1.10歳代	44	28.8
2.20歳代	96	62.7
3.30歳代	10	6.5
4.40歳代	2	1.3
5.50歳代	0	0.0
6.60歳代	1	0.7
7.70歳以上	0	0.0
合計	153	100.0



問6 ギャンブル等に投資する金額は1か月あたりいくらですか。

(金額を円単位で入力。n=153、金額の入力件数=56)

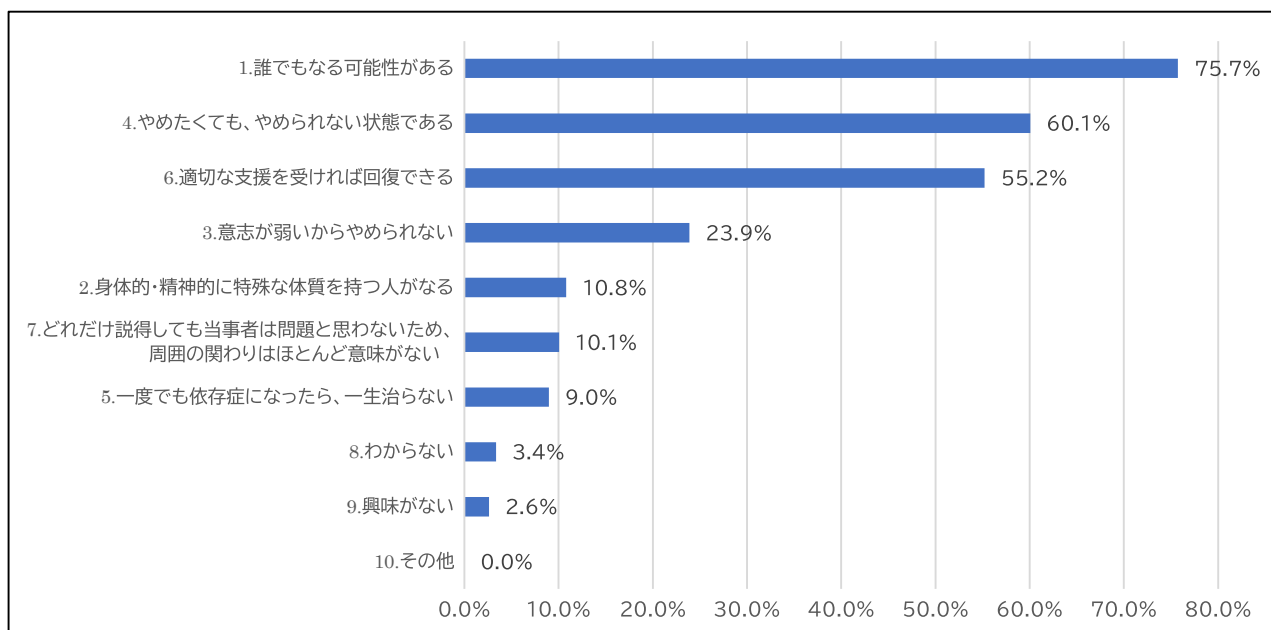
項目	人数(人)	割合(%)
1. 1万円未満	31	55.4
2. 1万円以上 5万円未満	22	39.3
3. 5万円以上 10万円未満	2	3.6
4. 10万円以上 50万円未満	0	0.0
5. 50万円以上 100万円未満	1	1.8
6. 100万円以上	0	0.0
合計	56	100.0



問 7 アルコール依存症のイメージで当てはまるものはどれですか。

(回答チェックはいくつでも。n=268)

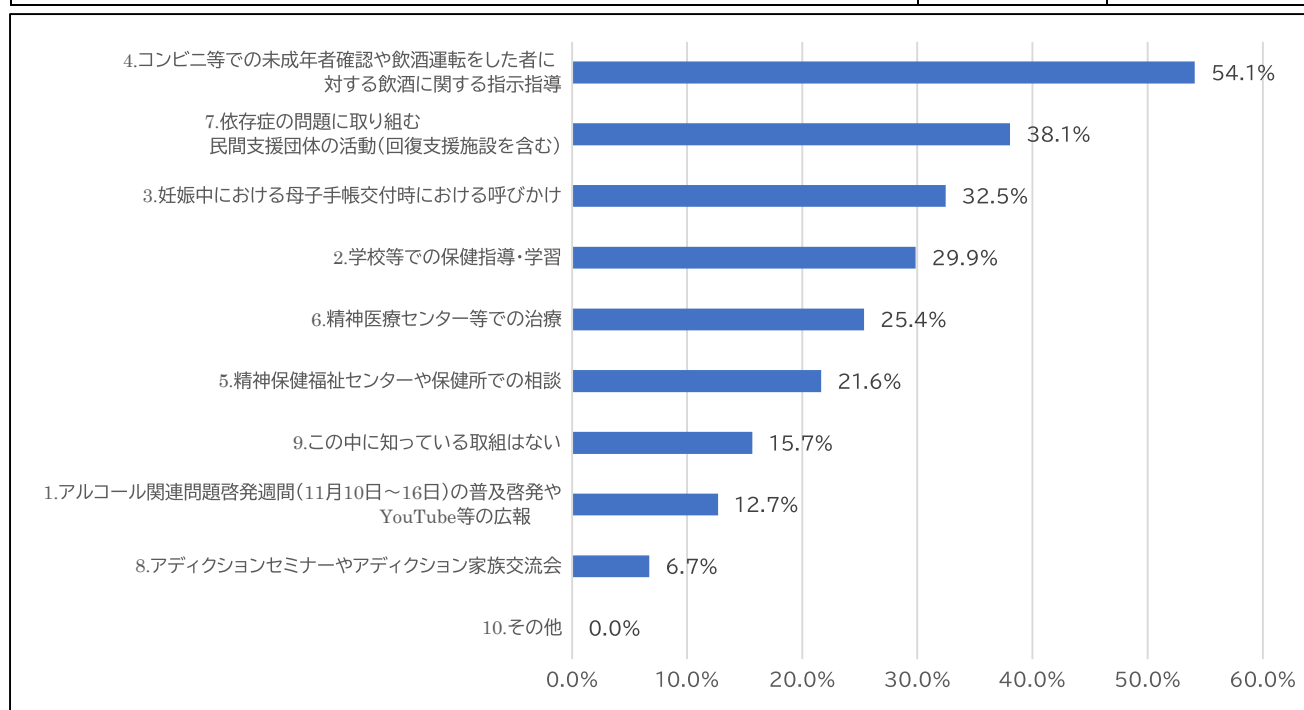
項目	人数(人)	割合(%)
1.誰でもなる可能性がある	203	75.7
2.身体的・精神的に特殊な体質を持つ人になる	29	10.8
3.意志が弱いからやめられない	64	23.9
4.やめたくても、やめられない状態である	161	60.1
5.一度でも依存症になったら、一生治らない	24	9.0
6.適切な支援を受ければ回復できる	148	55.2
7.どれだけ説得しても当事者は問題と思わないため、 周囲の関わりはほとんど意味がない	27	10.1
8.わからない	9	3.4
9.興味がない	7	2.6
10.その他	0	0.0



問8 アルコール健康障害対策で知っているものはどれですか。

(回答チェックはいくつでも。n=268)

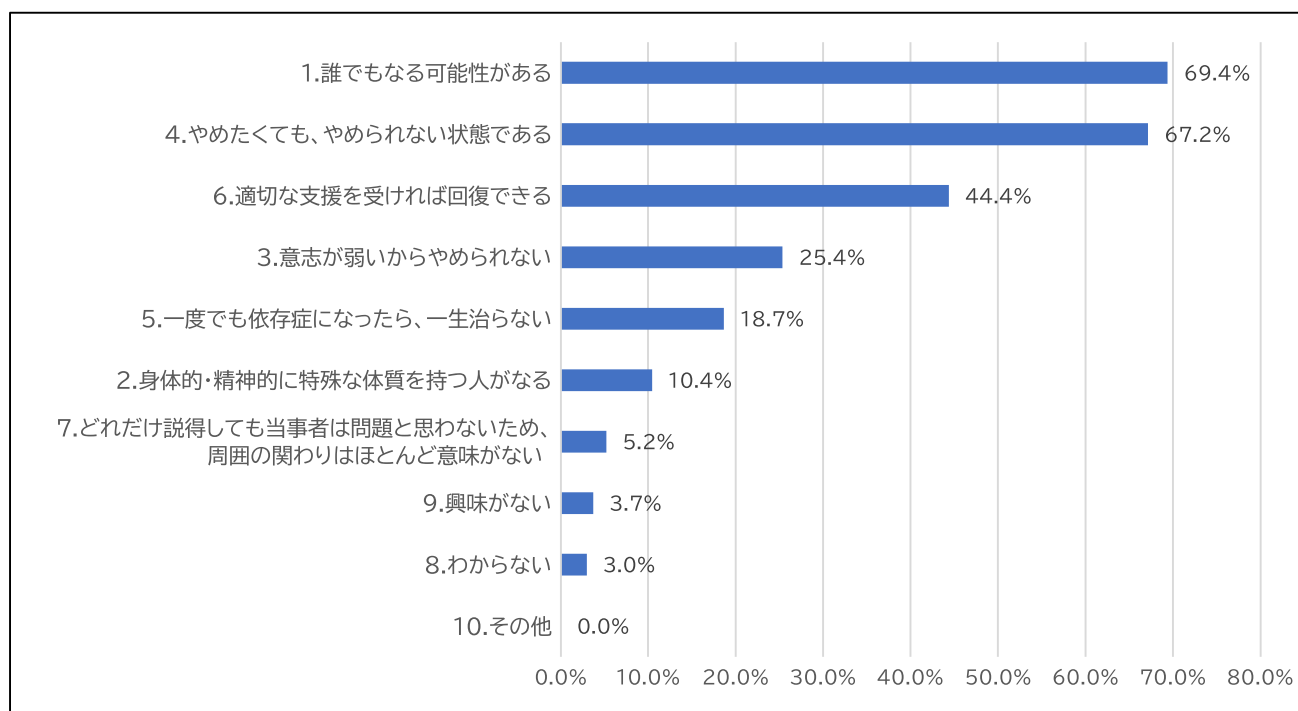
項目	人数(人)	割合(%)
1. アルコール関連問題啓発週間(11月10日～16日)の普及啓発やYouTube等の広報	34	12.7
2. 学校等での保健指導・学習	80	29.9
3. 妊娠中における母子手帳交付時における呼びかけ	87	32.5
4. コンビニ等での未成年者確認や飲酒運転をした者に対する飲酒に関する指示指導	145	54.1
5. 精神保健福祉センターや保健所での相談	58	21.6
6. 精神医療センター等での治療	68	25.4
7. 依存症の問題に取り組む民間支援団体の活動(回復支援施設を含む)	102	38.1
8. アディクションセミナーやアディクション家族交流会	18	6.7
9. この中に知っている取組はない	42	15.7
10. その他	0	0.0



問 9 薬物依存症のイメージで当てはまるものはどれですか。

(回答チェックはいくつでも。n=268)

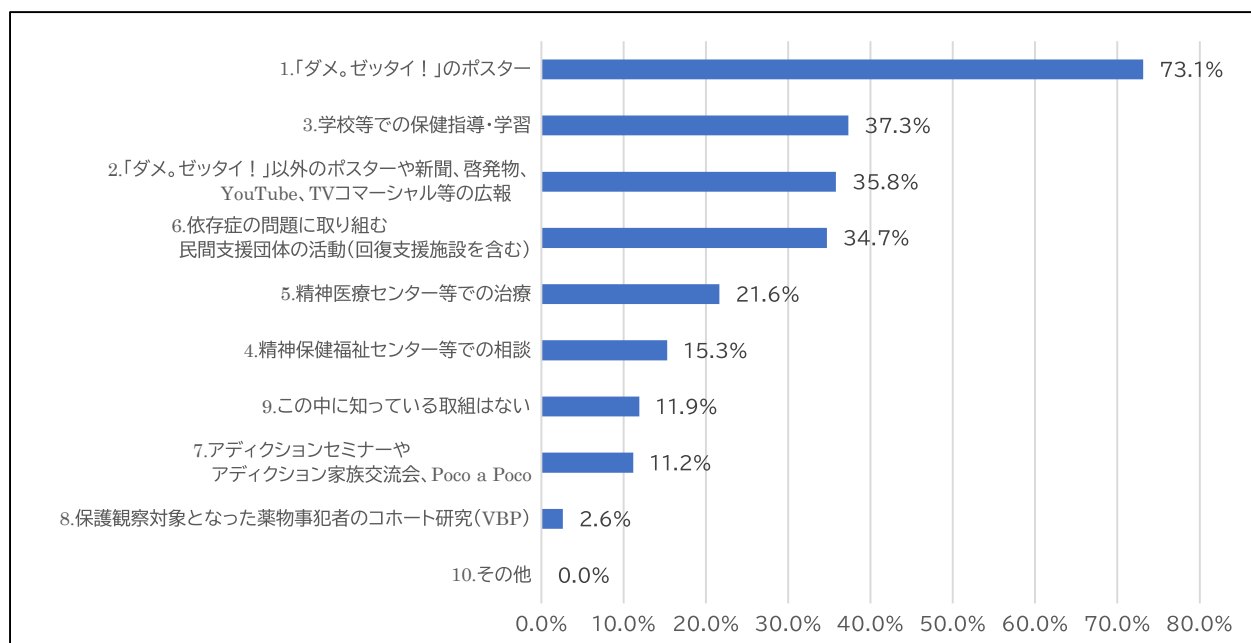
項目	人数(人)	割合(%)
1.誰でもなる可能性がある	186	69.4
2.身体的・精神的に特殊な体質を持つ人になる	28	10.4
3.意志が弱いからやめられない	68	25.4
4.やめたくても、やめられない状態である	180	67.2
5.一度でも依存症になったら、一生治らない	50	18.7
6.適切な支援を受ければ回復できる	119	44.4
7.どれだけ説得しても当事者は問題と思わないため、周囲の関わりはほとんど意味がない	14	5.2
8.わからない	8	3.0
9.興味がない	10	3.7
10.その他	0	0.0



問 10 薬物依存症対策関連で知っているものはどれですか。

(回答チェックはいくつでも。n=268)

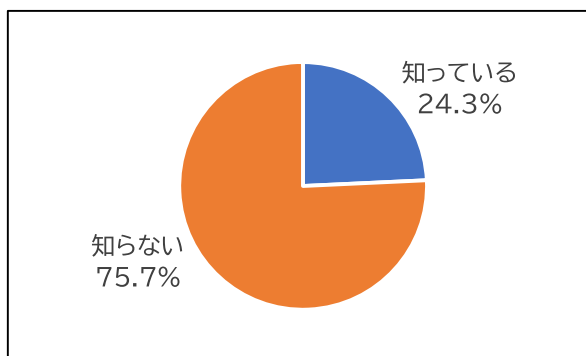
項目	人数(人)	割合(%)
1.「ダメ。ゼッタイ！」のポスター	196	73.1
2.「ダメ。ゼッタイ！」以外のポスターや新聞、啓発物、YouTube、TV コマーシャル等の広報	96	35.8
3.学校等での保健指導・学習	100	37.3
4.精神保健福祉センター等での相談	41	15.3
5.精神医療センター等での治療	58	21.6
6.依存症の問題に取り組む民間支援団体の活動(回復支援施設を含む)	93	34.7
7.アディクションセミナーやアディクション家族交流会、Poco a Poco	30	11.2
8.保護観察対象となった薬物事犯者のコホート研究(VBP)	7	2.6
9.この中に知っている取組はない	32	11.9
10.その他	0	0.0



問11 依存症の支援が受けられる場所や治療先を知っていますか。

(回答チェックは1つだけ。n=268)

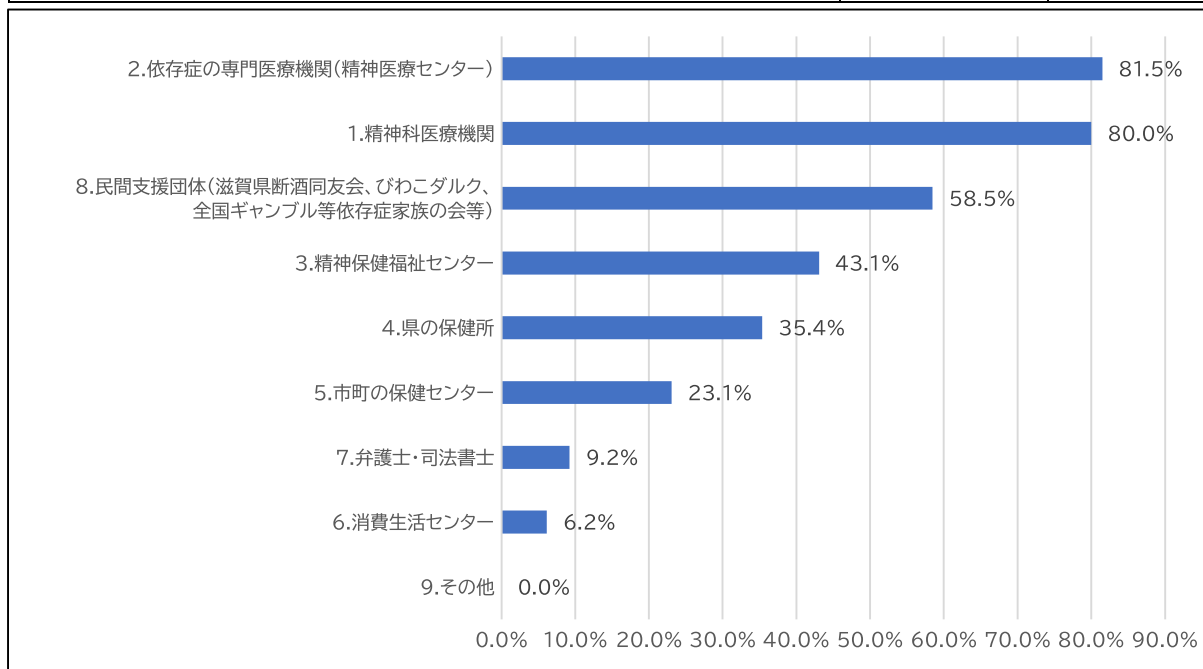
項目	人数(人)	割合(%)
1.知っている	65	24.3
2.知らない	203	75.7
合計	268	100.0



問12 問11について、知っている場所や治療先を選択ください。

(回答チェックはいくつでも。n=65)

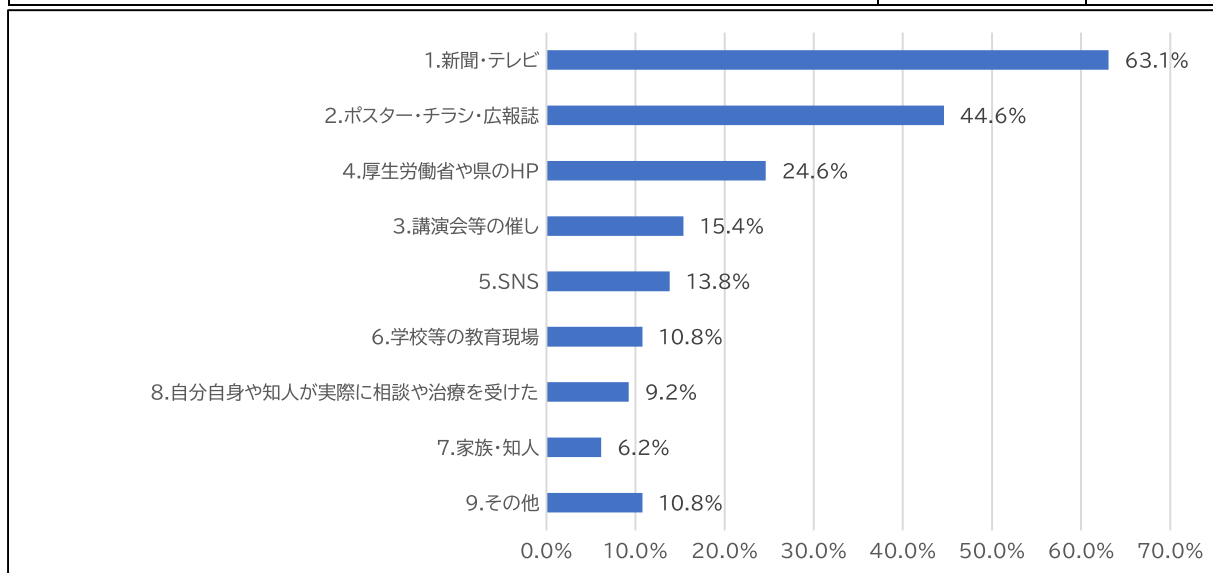
項目	人数(人)	割合(%)
1.精神科医療機関	52	80.0
2.依存症の専門医療機関(精神医療センター)	53	81.5
3.精神保健福祉センター	28	43.1
4.県の保健所	23	35.4
5.市町の保健センター	15	23.1
6.消費生活センター	4	6.2
7.弁護士・司法書士	6	9.2
8.民間支援団体(滋賀県断酒同友会、びわこダルク、 全国ギャンブル等依存症家族の会等)	38	58.5
9.その他	0	0.0



問 13 問12での選択について、知ったきっかけは何ですか。

(回答チェックはいくつでも。n=65)

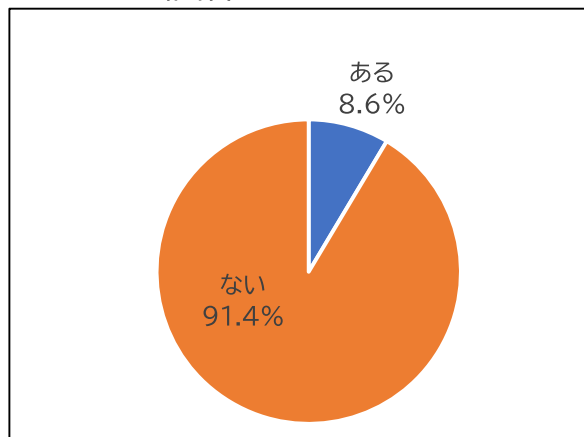
項目	人数(人)	割合(%)
1.新聞・テレビ	41	63.1
2.ポスター・チラシ・広報誌	29	44.6
3.講演会等の催し	10	15.4
4.厚生労働省や県のHP	16	24.6
5.SNS	9	13.8
6.学校等の教育現場	7	10.8
7.家族・知人	4	6.2
8.自分自身や知人が実際に相談や治療を受けた	6	9.2
9.その他	7	10.8



問 14 あなたや知人で依存症関連について悩んだことはありますか。

(回答チェックは1つだけ。n=268)

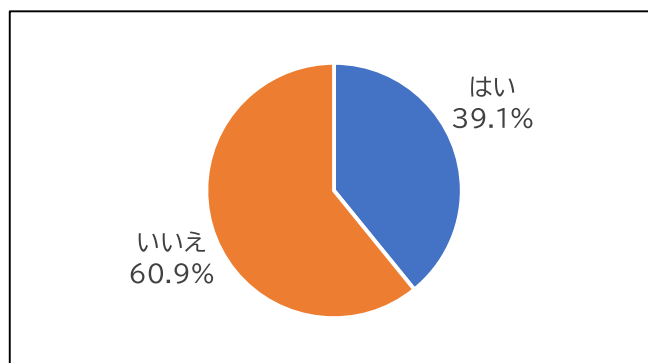
項目	人数(人)	割合(%)
1.ある	23	8.6
2.ない	245	91.4
合計	268	100.0



問 15 あなたや知人は相談や治療を受けましたか。

(回答チェックは1つだけ。n=23)

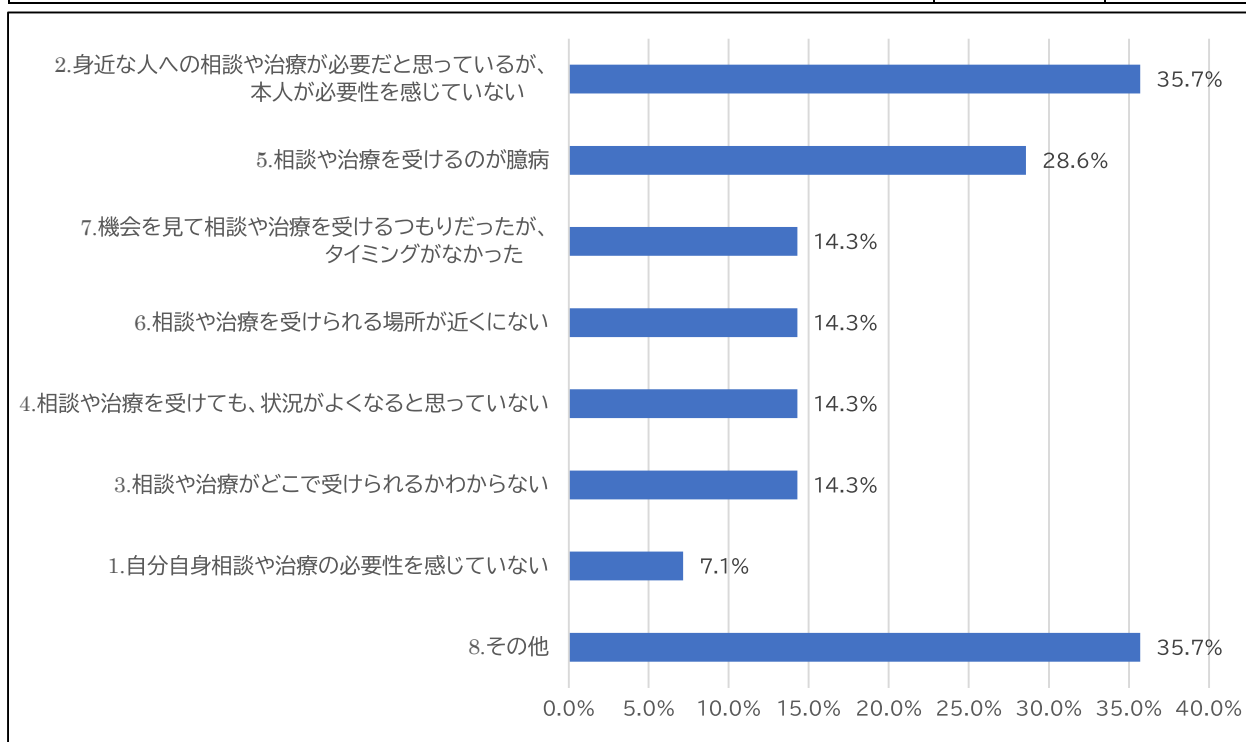
項目	人数(人)	割合(%)
1.はい	9	39.1
2.いいえ	14	60.9
合計	23	100.0



問 16 あなたや知人が相談や治療を受けなかったのはなぜですか。

(回答チェックはいくつでも。n=14)

項目	人数(人)	割合(%)
1.自分自身相談や治療の必要性を感じていない	1	7.1
2. 身近な人への相談や治療が必要だと思っているが、本人が必要性を感じていない	5	35.7
3.相談や治療がどこで受けられるかわからない	2	14.3
4.相談や治療を受けても、状況がよくなると思っていない	2	14.3
5.相談や治療を受けるのが臆病	4	28.6
6.相談や治療を受けられる場所が近くにない	2	14.3
7.機会を見て相談や治療を受けるつもりだったが、タイミングがなかった	2	14.3
8.その他	5	35.7



問 17 県の依存症対策へのご意見があればお聞かせください。

- 「ダメ！ぜったい！」のスローガンは恐怖を仰ぎ相談をしにくくするものだと、反対されていると思います。誰でも依存症になる可能性があること、病気であることについて正しい知識が得られるような広報や教育を是非にお願いしたいです。教育も警察官などがくるものではなく依存症回復施設の方など当事者の声が聴けるものがリアルで良いかと思えます。
- 県がどのような依存症対策をしているか全く知らない。大阪にカジノの建設が予定されているので、対策の強化および積極的な広報をしていく必要があると思う。
- 依存症は恥ずかしいと思う人がほとんどで、自覚なく認めない人がなっていると思います。依存症は誰もがなりうることだということを周知して、自分自身認めるようにし、少しでも感じたら気軽に問合せや相談できる場所を身近に設置したらよいかと思います。
- 普段はあまり真剣に考えない課題かと思いますが、高齢者でアルコール依存や薬物依存等が増えるケースがあると聞いています。孤独、孤立、等が原因かと思われそうですが、その意味では誰でも依存症になる危険性は有ると考えます
- アルコール依存症や薬物依存症の経験はありませんが、最近若い子から 薬物と分かっている子が多いいし、たいていの子は経験しているのと違う？これだけ簡単に手に入れる世の中で安く手に入れる事が出来たら、興味ある子は手を出す。とぞっとする話を聞いたことがあります。簡単に買える金額にも問題かな？と思います。
- 誰にでもなりうることだと思しますので、ポスターや啓発運動を通して認知度を広めて行くことが必要だと思います。もしそうなった時には何処に相談すればいいかみんなにわかるように広めてほしいと思います。
- テレビでは見たり聞いたりするが、実際に自分や知り合いがその状況になったらどこを頼ればいいのか分からない。ポスターや広報などで周知が必要ではないでしょうか。
- 依存症は個人の問題でなく県民全体の問題であり、その対策へ向けた啓発活動をもっと真剣に取り組むこと。
- 大阪の夢洲地区に、カジノを含む統合リゾート(大阪 IR)ができる予定である。大阪には、滋賀県からは JR 琵琶湖線であれば一本で行けることから、ある程度の県民がカジノを体験することになると予想される。県下で依存症患者を増加させないためにも、これまで以上に依存症の情報発信、治療先の周知、医師などの専門家の採用に力を入れて、大阪 IR の観光資源などの良い面を上手に取り入れ、悪影響を出来るだけ排除できる施策や計画の立案を 1 人の県民としては求めたい。
- 依存症は、本人の個人的な因子ではなく、環境要因が主な要因であると考えます。生きづらい世の中が依存症を生むと考えますので、滋賀県においては(そもそも国ですが)その環境要因に働きかける取り組みを推進していただきたいと思えます。
- 自分が依存症かどうかの判断基準がわかりません。おそらく、病院や精神科など行くような段階になるとずいぶん進行してしまった印象があります。実際、病院や施設などで、依存症なのかどうか、また依存症になりやすい人などのわかりやすいチェック項目などがあると、いいのではないかと思います。特に若い人はネット依存などでてくるかもしれません。

ネットでギャンブル(ゲーム課金も含め)、アルコールに変わるまた別のものなど、昔よりもっと手軽に依存症になりそうな気がします。小学校、中学校、高校などできちんと指導すべきだと思います。その際、例えば治療にかかる費用や期間、施設に入るとかかる費用や期間、自由度などお金や経済とも組み合わせて指導すべきかと思います。(医師やソーシャルワーカー&ファイナンシャルのプロの方が指導)

- 依存症で困った時の相談窓口が分かりにくいと思います。身近に知っている人がいない為に、気付けば依存症になっていた、と成らないために。
- 滋賀県が依存症対策を積極的にしているというイメージはなかった。
- 周囲の支えが必要で、孤立させないようにする必要がある。
- 依存症は、依存してしまう前の対策が大切だと思います。特に若年層、および若年層を育てる子育て世代はストレスもおおく、入口に入りやすいと感じます。危険性を訴えると同時に、県民が安心して楽しく暮らせる、暮らしづくりが大切だと思います。
- 未成年者への教育が重要と思う。特に、その重大性を防犯、指導する側の方々がお話をするよりも、実体験を経験した方々の話の方が説得力は格段に高いと思います。
- ネットを通じて気軽にギャンブルが行えてしまうため、依存症リスクを理解しないまま始めるケースが想定される。サービスが普及する前に注意喚起・リスクの周知が必要に感じます。胴元が海外の場合はハイリスクなサービスも多いことを周知すべき。また、スマホゲームの課金ガチャもギャンブルの要素がある。一部の課金はギャンブルと同様のリスクがあることも注意すべき。
- 治療機関が、南部に偏っており湖北からの通所は難しい。適切に支援に繋げるために関わりのある支援者がまず是对応する必要があるが、繋げるためのノウハウを持っている支援者が自分も含めて少ないと思われる。
- 依存症というと自分は絶対にならないという思い込みがみんなあると思う。その無意識の思い込みを変えていく取組みが必要だと思う。
- 未だに偏見を持つ人たちがいっぱいいる。自分もなる可能性があることを意識させるインパクトのある広報があると良い。また、偏見がある故に周りの目を気にして依存症本人が専門機関にかかりにくい実態がある。自分がそうかもしれないと思った時に人の目を気にせずつながれる場があればと思う。